

尼崎城お目見え

市役所中館

原寸大の布絵で再現

2016
あまがさき
100年

尼崎市役所中館の南壁に8日、明治維新後に廃城となった「尼崎城」を縦18層、横16層の原寸大で描いた布絵がお目見えした。尼崎市の市民グループ「サ

尼崎市役所中館の南壁に展示された原寸大の布絵「尼崎城」——尼崎市役所で



ロン・ド・サモン」が来年の尼崎市制100年と、18年の尼崎城築城400年を祝うカウントダウン行事として企画。県立尼崎高（北大物町）の美術部員が

協力し、完成させた。14日まで展示する。尼崎城は1618年、尼崎藩主だった戸田左門氏（さだむね）によって、現在の北城内、南城内地域に築城された。現

在、城跡に遺構はほとんど残っていない。「サロン・ド・サモン」は市制100年の節目を前に、若い世代に尼崎の歴史に関心を持ってもらおうと「尼崎城—

夜城プロジェクト」を立ち上げた。

布絵は今年1月〜3月、県立尼崎高の美術部員らが春休みなどを利用して制作した。工事現場用のメッシュシート20枚に黒ペンキで濃淡をつけて尼崎城を描き、つないだ。

この日、布絵は市役所中館の9階屋上から4階部分にかけて展示された。完成作品を見上げた、プロジェクト代表の正岡茂明さんは「布絵を見て足を止め、尼崎城を知ってもらい、街の歴史にも目を向けてもらいたい」と話している。

【生野由佳】